



Japan Sporting Equipments Retailers Association

No.67

編集/発行:日本スポーツ用品協同組合連合会
〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-8-6
東京スポーツ会館 301号室
☎ 03-5829-6490 FAX 03-5829-6491
ホームページ <http://www.jsera.jp/>
E-mail jsera@jsera.jp

(2013/8~2014/7のスローガン)

元気結集! ひとつの力より みんなの力



初日の出に向かって 「それでも耕そう」よ!

JSERA・日本スポーツ用品協同組合連合会

理事長 重森 仁

新年明けましておめでとうございます。2014年初春、如何お過ごしでしょうか。身近に迫った課題は多々ありますが、新年らしく明るい話題でスタートしたいと思います。何と言っても2020東京オリンピック・パラリンピックそしてスポーツ庁の創設の事を取り上げなければなりません。当然、オリンピック・パラリンピックそのものにも願うことは多々ありますが、2020のそれに向かう過程、事後の効果にも大いに期待します。前回の東京オリンピック・パラリンピックにおいてもスポーツ界は大きくジャンプアップし、後世に遺産を残してきました。目減りした分を補い、更に上積みし、未来への希望を膨らませることが今回の東京大会の大きな意義の一つと考えます。もちろん、スポーツ界のみならず、広い分野への波及効果が期待され、東北を、日本を元気にし、さらに参加した多くの国々に、オリンピック精神が啓蒙されることで、世界平和にも貢献するものと考えます。

この機会を、JSERAは、組合員はどう捉えるべきでしょうか。私は、直接この大会から効果が得られることもありますが、多くは間接効果の範疇と考えます。言い換えれば、この追い風に乘って、自分たちは何が出来るのか考えることではありませんか。かつて、私達の先達は、不毛に近い地に、地域スポーツを根付かせ、発展させつつ生業としてスポーツ店を営んで来たと思います。たとえば、大地を耕し、種を蒔き、育て、収穫し、その収穫の糧で、翌年また、種を蒔き、育て、同じ様に収穫し、また、次の年もと・・・言う具合に。

ある時突然、大型のコンバインが現れ収穫前の稲を刈り取っていききました。今や座ったまま

キーボードを叩いて利益を得る徳川さえ現れたと言えば、大げさでしょうか。その間に耕地は減少(ゲームなどに押され)し、商モラルも低下し、殺伐とした業界になりつつあると危惧するのは私だけでしょうか。

将来に2020東京オリンピック・パラリンピックという一筋の光明は見えたものの、足元には法令順守を楯に結果的に放置されるネット乱売、電子化によりますます蟻地獄化する入札等々、閉塞感が漂います。現実目目を背けず、組合が取るべきスタンスを考えたいと思います。

ネット乱売について

生産、販売過程の合理化、売れ筋予想の精度アップ等々合理性のある値下げは消費者の期待に応えるもので、大切なことと考えますが、三層の誰かを泣かせたり、安易なシェアアップの発想によるものは否定せねばなりません。また、公正な表示によらないネット広告も多々あります。さらに、メーカーからは、高い水準で購入を迫る(売上が上がらなければ、下代を上げますよ)傾向が強まっていますが、売り切れない分はネット等で格安処分されて行きます。このままでは、商品の価値に対する消費者の感覚が正常ではなくなってしまいます。ネットによる乱売は、「死ぬまで戦わせる」試合をメーカーが見物しているとまで言えば過激かもしれませんが、そろそろレフリーになって欲しいものです。もちろん法令順守は大切ですが、モラルも同様に大切なものです。

入札について

「他に公平に納品者を決定できないから、入札制度を維持している。いわば必要悪ですよ。」と同情してくれる公務員はいてくれても、何も改

善されない。卸価格に5%も乗せようものなら落札しない、いや、卸価格以下の場合さえあるのが現状です。基本的に入札制度が維持される中で、せめて多少の改善は望みたいものです。

たとえば、具体例を挙げるなら、

1つは体育用器具における安心・安全性の担保です。バレーボールの支柱、巻取り器、ネットワイヤーなどに関わるトラブルは後を絶ちません。一定の研修を修了した業者のみに入札権を与えることが改善策の一つと考えます。

2つ目は、そのために最低価格の設定です。価格競争は時には、安全を犠牲にした競争を助長するようになりかねません。最低価格の設定により、必要経費と「安心・安全」の担保が確保されます。「価格のみ競争」に終止符を打って欲しいものです。

3つ目は社会貢献です。企業がその地域のスポーツ振興に寄与していることの評価です。その企業や所属する団体が地域のスポーツ振興に一定の役割を果たしている場合にのみ入札権を与えるというものです。

土地を耕さず、種も蒔かず、育てもせず、収穫のみを求める業者をある程度除外できると思いますが、如何でしょうか。

そして組合のスタンスは

東京オリンピック・パラリンピック決定の追い風をいかにして受けて行けばいいでしょうか。

その基本スタンスを考えましょう。従来、野山を駆け巡り、グラウンドで球技を楽しんでいた子ども達も屋内に引きこもってテレビゲームや塾通いでスポーツは隅へと追いやられてしまっています。直近の文科省の調査では、女子中学生の4分の一は、体育の授業以外、体を動かすことをやっていないと言います。子供たちをグラウンドに、体育館に引っ張り出すことから始めなければなりません。とはいえ、北風ではコートを脱いでくれません。太陽が大切です。子ども達が進んでスポーツをする環境づくりに寄与したいものです。もちろん、スポーツ庁の創設は必要条件です。

先日の土曜日夜、閉店間際に「ベースを固定するブロックはありませんか」と少年野球関係者が店に来られた。どうやら1面分足りないようでした。このままでは、明日の試合開催が危ない。生憎、在庫はありませんでした。後は、借りるしかないと判断し、心当たりのある協会にアポをとりました。夜、借りに行き翌朝届け、間に合わせました。大変喜ばれました。商売にはならなかったけれど・・・、先達もこんなことの積み重ねで土を耕してこられたのでしょう。土地を耕し、種を蒔き、収穫するという本来の姿を忘れてはなりません。

勝手に刈り取って行く人がいても、それでも私は種を蒔く。スポーツを愛する者のフェアプレイに期待します。

もう一つの話は出来れば避けたい話ですが、そういう訳にはいきません。それは消費税

増税の件です。増税後に発生するであろう売上の減少への対応はもちろんのこと、スムーズな8%移行も大きな課題です。特に後者の課題について、組合員から問合せ、ご意見、ご要望を頂いています。学納を多くお持ちの場合、特に難しい判断を迫られているようです。税額は原則として納品時で判断されるものですから、一時入試の合格者に対し3月に販売（納品）、二次入試合格者に対しを4月に販売（納品）した場合同じ年度の入学生でも価格差を生じます。これに対し学校側からあれこれと注文がでることは十分に予想されます。「JSERAで統一した見解を」との声も耳にしますが、なかなか困難な課題です。個別の問題では、専門の税理士さんでも判断が分かれるようです。異業種の組合、JASPO、外食チェーン業界などの見解も原則論はあるものの、個々の問題は個別の企業に任せるような内容です。たとえば、表示の問題でも「本体価格＋税を原則としますが、個々の企業でより適切と判断されれば、その他（たとえば内税方式）でもかまいません。」と言う具合です。また、デパートとスーパーでは判断が分かれるようです。地域差もあると言われます。自身の店の商圈にある有力店に合わせることで混乱を最小限に抑えるコツと言う人もいます。

福井県のスポーツ組合の組合員に対する表示のアンケート結果は、「本体価格＋税」、「本体価格＋税と総額表示の併記」、「総額表示のみ」などバラバラでした。店の形態、在庫量、10%への移行問題、地域他業種の状況など総合的に判断された結果であると思います。

上記のような状況を鑑み、私は、JSERAとして移行時の税額処理、店頭価格表示の方法について統一した方針を示すことは困難（12月末の状況では）と判断します。難しい案件は、顧問税理士さん等と相談され、JSERAからの資料、都道府県の組合や中小企業中央会が行う学習会を参考に法令、国の指針の範囲で適正に判断いただきたいと思います。

JSERAとしては、すでにJSERAレポートと同送のチラシ、定時総会でのレクチャー等で、この件について情報提供してきました。今後は、移行時にそれぞれの店で使えるPOPやチラシを配布（ネットで配信）することなどを考えています。担当委員会で準備を進めています。今回の消費税増税は業者間には転嫁対策措置法があり、8%移行がスムーズに行われても、われわれ小売と消費者間には「還元セール広告の禁止」、「表示の特例」等多少の配慮はあっても不十分で交渉には弱い立場にあります。価格交渉の結果、8%に出来ず、最後は中小零細の小売が泣くことになってしまいかねません。

値引きとしないようにするには、笑顔と誠意を持ってお客様に接し、ご理解いただくことしかないのでしょうか。収穫までの、農作業の厳しさと理解すればいいのでしょうか。苦笑い。

「私のオリンピック」



三共スポーツ株式会社

代表取締役会長 山口 直樹

2020 年東京オリンピックが決まり未だにその瞬間が放映をされ我が業界の代表である水野元会長が画面に映し出されその働きには敬意を払わなければと思っています。お疲れ様でした。

さて、1964 年 10 月 10 日と云えば皆さんご存知のアジアで初めて開催された東京オリンピック開会式の日である。

その 10 月 10 日は現在体育の日に制定され国民の休日となっているがその後三連休とすべく 10 月の第二月曜日が体育の日になった。

1964 年は 19 歳で運転免許の取得に自動車学校に通っている最中であつたが先生も生徒もオリンピックを見たいだろうとの配慮から自動車学校は臨時休業となった。因みに 10 月 1 日は東海道新幹線が開通した日で東京から大阪が 3 時間 10 分で行けるようになった年でもある。オリンピックに間に合わせるべく関係者が努力した賜物である。

東京卸組合はこのオリンピックを成功させる為に組合員が一丸となって裏方の仕事をしたと聞いているが具体的にどのような仕事をしたのか私は知らない。当社には東京オリンピック開催を記念したポスターが本社受付に掲げてあるが残念ながら 1 枚は紛失し 2 枚となっている。2020 年開催ポスターも作成されると思うので何としても手に入りたいものである。

開会式が開催された当日は抜けるような青空であつたのであるが、私はその日開会式会場の中にいたのである。席は聖火が聖火台に運ばれていく階段のすぐ横であつた。何故開会式のチケットが 1 枚私の手にあつたかはこれまた私は知らない。しかし一つ思い当たる事がある。父はオリンピッ

ク観戦ツアーに何度か参加している。1960 年開催のローマオリンピックである。東京オリンピック開催にあたり業界で出来る事はないかと羽田から出発したがその当時は海外に行く事は大変なことで空港では大きな横断幕が用意され家族は勿論社員、取引業者などで空港内はお祭り騒ぎの様であつた。ご一緒した観戦メンバーの中にはアシックスの鬼塚さんも一緒だったと記憶している。父はオリンピック開会式をローマで見たので東京オリンピックの貴重なチケットを私に回してくれたのであろう。

ローマ、東京のオリンピックが終わり 1968 年には東京卸組合でメキシコオリンピック観戦ツアーに参加。ここで父に体調異常が起これ急遽サンフランシスコにいる父の従兄弟の助けを受け入院、病名は尿道結石。後になって従兄弟からこの顛末を聞いたがその後 4 年おきに尿道結石になり我が家ではオリンピック結石と呼ぶようになった。よってその後のオリンピック観戦旅行に行くとは云わなくなった。

私は 7 年後の 2020 年は 75 歳になっているが第 2 回東京オリンピックを新しく作り直される屋根つきの国立競技場での開会式をこの目で見たいものである。その時は最終ランナーが走って聖火台に上り点火などはせずに奇抜な創造の点火式になると思うが 1964 年の点火式を見た私からすれば 2020 年の点火式はどのような方法なのか楽しみであり是非見てみたいものである。

今後益々日本スポーツ用品協同組合連合会(JSERA) がご発展する事をご祈念し終わりとさせていただきます。

第15期 第3回理事会報告

日 時：平成 25 年 11 月 20 日（水） 11：00～16：30

場 所：東京スポーツ会館 4 階 会議室

<審議事項>

1. 委員会報告並びに委員会担当業務の詳細

<活性化委員会>土赤委員長

- ・スポーツ安心の場講習では現在 2 日間で行っているが、新たに 1 日講習コースを新設する。
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックに向け、社員向けの何かをつくり盛り上げていこうと考えている。

<共生委員会>武宮委員長

- ・正常化対策会議を 3 月 12 日（大阪）・4 月 23 日（東京）で開催を予定し、テーマは体育器具関係で考えている。

<広報委員会>角前委員長

- ・POS 事業として、消費税アップによる POS レジのシステム変更費用は 1 台約 10 万円 8% から 10% になるときは半額くらいで出来る。プラネッ

トから直接各お店に連絡が行くことになっている。

- ・ホームページに facebook を組み込む件は、リスクが最小限であるという方法が認められた時からする。
- ・現在のホームページには会員名簿が載っているが、個人情報という事もあり今後は店名のみの掲載とする。

（全員一致で承認）

<事業委員会>関水委員長

- ・全国大会での講演時のティーボールを JSERA が扱えるか、吉村教授とナガセケンコーと交渉する。
- ・無害くんの値上げについて、旭鉦末より各地区の組合宛に案内を郵送。

2. JSERA 年間スケジュールの件（全国大会予定県）

*第15期 JSERA 理事会・役員会（行事日程）

平成 25 年 10 月

年	月	日	曜日	JSERA 行事	理事会	役員会
25	8			全中（東海） インターハイ（北九州）		
	9	11	水	（会計監査）		第 1 回
		12	木		第 1 回	
		25	水	関東・甲信越ブロック大会（茨城） 鷗松亭		
	10	上旬		国体（東京） 体育の日活性化（各県組合） 「ボールを贈ろう運動」		
		23	水	中国ブロック大会（島根） ホテル一畑	第 2 回	
		24	木	JSERA(定時総会) 全国大会（島根） ホテル一畑		
	11	6	水	九州ブロック大会（福岡） ホテルオークラ		
		13	水	近畿ブロック大会（滋賀） ホテルポストンプラザ草津		
		19	火	三大大会（インターハイ）伝達会議（東京）		第 2 回
		20	水		第 3 回	
	12	2	月	三大大会（全中）伝達会議（香川）		

26	1	6	月	関西新年賀詞交換会		
		7	火	東京新年賀詞交換会		
		8	水	名古屋新年賀詞交換会		
		9	木	北陸3県新年賀詞交換会（福井）		
		15	水			第3回
		16	木		第4回	
	2	4	火	JSERA 全国理事長会議（午後） ニューオーサカホテル	第5回	
		5	水	JSEC 連絡会議（午前） 卸役員との懇談会		
		4・5	火・水	大阪卸見本市		
	3	12	水	正常化対策会議（大阪）		
	4	23	水	正常化対策会議（東京）（共生委員前日入り）		第4回
		24	木		第6回	
	5					
	6			北海道・東北ブロック大会（岩手）		
	7	2	水			第5回
		3	木		第7回	
	8			全中（四国） インターハイ（南関東）		
	9	3	水	（会計監査）		第1回
		4	木		第1回	
	10			国体（長崎）		
		21	火	中部ブロック大会（石川）		
		22	木	JSERA（定時総会）全国大会（石川）	第2回	

* JSERA 全国大会 主管ブロック一覧

2014 年 平成 26 年 中部ブロック協議会（石川県）
 2015 年 平成 27 年 九州ブロック協議会
 2016 年 平成 28 年 近畿ブロック協議会
 2017 年 平成 29 年 関東甲信越協議会
 2018 年 平成 30 年 北海道・東北ブロック協議会
 2019 年 平成 31 年 四国ブロック協議会
 （全員一致で承認）

3. 復興支援事業 宮城県ウォーキング大会報告の件

- ・10月27日に予定していたが台風27・28号の影響で中止とした。
- ・JSERAからの補助金の差額分は、JSERAに返金することとする。（全員一致で承認）

4. 全国理事長会議（内容）の件

- ・研修会は分科会（3～4テーマ）とし、テーマについては理事長・専務に任せ、各委員長に後日連絡する。（全員一致で承認）

<協議事項>

1. 島根大会（総会）の反省点

- ・組合員数の少ない島根県だったが浅津理事長を中心に、中国ブロックが一丸となって成功に導かれた。
- ・宿泊並びに会場移行・観光での人手不足の拙さも若干目立った。
- ・レディースフォーラムは第2回であったが、参加者には満足感もあり、今後も続けていきたい。

2. その他

- ・消費税法税率改正について望月税理士より説明を受けた。
- ・卓球台の配送料は大型店でも正式に料金を取っているのに、我々小売店も正式に取れる立場になるべきである。
- ・ネットでの新商品価格乱売等も今後、メーカー・卸と協議する。

2013 未来へつなぐ 北部九州総体

大分県 総体 売店事業 報告

大分県スポーツ用品協同組合

実行委員長 浅利 克美

JSERA 角前 弘道広報委員長のご指名により北部九州（福岡、佐賀、長崎、大分の4県）を代表して、大分県の売店事業報告をさせていただきます。まずは始動から開会式までの、取組みを報告します。

昨年の、2012 北信越かがやき総体に、大分県が担当する競技、開会式、陸上競技、ソフトテニスの会場になります。新潟県を、伊藤副理事長が視察に参りました。

同年、11 月福岡県にて、新潟県の伊藤理事長、石田事務局長、JSEC 藪下専務理事に、お越しいただき、総体情報伝達式を、4 県の役員が出席し開催されました。大分県からは、吉田理事長、伊藤、相良副理事長、川上専務理事と、浅利の5名が出席しました。新潟県の、開催までの準備、目標、結果の報告をいただき、またアウトサイダーの業者についても説明いただきました。

2 月に、大阪にて開催されました。JSERA、開催小売組合、JSEC、NES 連絡会議に伊藤、川上、浅利の3名が出席しました。

この2つの会議を、受けまして、年末から2月初めにかけて、組織と予算づくりに、取り組みました。

そして、2 月中の役員会にて、組織、役割、予算、目標の検討等の確認をさせていただきました。

3 月初めには、組合の総会と合わせて、第1回の全体会議開催し、組織、役割、予算、目標の全組合員の、承認をいただきスタートすることが、出来ました。

3、4、5 月の新学期の繁忙期の期間ですが、競技担当役員には、県、各市の実行委員会に挨拶、申請等に関する打合せを行っていただきました。6 月に第2回の全体会議（申請状況の確認他）、7 月

中に第3回（売店人員の確認他）、7 月末に第4回（各売店の最終確認他）、6 月からは大分市内の執行部役員は頻繁に会議を行いました。

総体の運営費広告につきましてご報告いたします。運営資金としまして、組合員（15 店）より1店10 万円の総体事業、借入金をしました。大分県は、開会式と8 競技の開催でした。

協賛、広告予算としまして80 万円を計上しました。大分県（開会式）より協賛依頼があり企業協賛特典で、大会シンボルマークの使用権がある20 万円にしました。シンボルマークを使用したのぼりを制作し組合員の店頭を飾り、大会を盛り上げました。各競技実行委員会より、寄付としてよりもプログラム広告の依頼でした。競技団体により広告金額を変えて出しました。競技団体によっては広告を出したことで、出店料を免除されました。

警備、テント出店申請（調整）については、まず警備は大分国体の時の大分県警備協同組合に依頼しました。

JSEC の希望予算に沿う形で警備員等人員を減らして対応してもらいました。

また、警備時間が各競技の日にちによっても違いますので、売店責任店には担当警備会社に引き継ぎ時間の確認をしてもらいました。

テント出店申請は、JSEC のメーカーや NES の組合売店の希望数が十分確保できない競技がありました。

多くは、売店が出せるほどの、敷地がなかったことです。特にバスケット男子（別府会場）は、テント申請数の半分程の削減とテントも3 坪になりました。出店の配置にも苦慮しました。

開会式では、食品関係の出店業者の希望が少な

く、県より陸上競技の出店メーカーに出店要請があり、急遽開会式に出店してもらいました。翌日はオフでしたが、陸上関係者が前日練習するということで販売しました。暑い開催時期でしたので、販売員の水分補給に心がけました。

メーカー売店で一部のメーカーが、商品をテントよりはみ出しての販売を、他メーカーより指摘があり早速撤去してもらいました。事前打ち合わせの時に指導必要。

アウトサイダーの出店につきましては、地元イトダネームがほとんどの会場に出店しました。警備の参加には、参加希望の申し入れがあり他県に於いても同様でした。

バスケットではゲートコーポレーションが、陸上では地元のお土産販売店が参加しました。

売上は前年対比 93% の売上出した。売上の大きいバスケット等に制約ありましたが、今回はよく健闘したのではないかと思います。

JSEC の藪下さん、星野さん、NES の築城さんはじめスタッフ一同様、出店いただいた各メーカーさんには、ご指導ご協力いただき感謝申し上げます。

また、藪下さんにおかれましては今年で退職とのこと、長年に渡りご指導いただき感謝申し上げます。健康に留意され、今後のご活躍をご祈念申し上げます。

最後に当県は、2008 年の大分国体を組合員全員が体験し、私自身も当時の理事長としての経験が、今回の総体事業を短期間のうちに準備・実行そして無事に終了することができたと思っています。

役員並びに各店のオーナー、売店に携わった各店のスタッフに、感謝申し上げます。



平成 25 年度全中大会報告 三重の部

三重県スポーツ用品協同組合

理事長 角 前 博 道

平成 25 年 2 月に JSEC より全中の予定表を送ってもらいました。それで早速役員 4 名が集まり打ち合せをおこないました。そこでまず中体連の理事長と事務局に挨拶に行き、25 年度の賛助金を支払って来ました。この賛助金は、三重県の組合としては、前回の全中大会の時から毎年賛助金として支払う様にして、太いパイプにてつながろうと思い行ってきました。3 月の初旬に理事会を開き、実行委員会の立ち上げを行いました。競技は、柔道（伊勢市）ソフトボール（津市・亀山市）新体操（名張市）です。そしてそれぞれの会場の責任者を決定し、会場主任として、会場管理・会場



の使用料、テントの配置・テント借用の件、警備会社と警備の件等々会場主任にまかせて準備を進めました。3 会場共別にむづかしい問題もなく、中体連本部の好意により準備が出来た様に思います。

さて、大会の当日ですが、今回は我々三重県だけでなく、中部 4 県共とんでもない暑さの中での大会でした。柔道会場の売店はアリーナ前の駐車場です。コンクリートの上にテントを張りましたので日中の表面温度は 45℃ にもなり、熱中症に販売員がならないか、気を配りました。順番にア



リーナに入り涼を取る様にすることと、多量の水を取る様に注意をしてもらいました。弁当は大会本部の役員さん達と同じものを依頼し、食中毒に気をくばりました。

ソフトボール会場は、男子と女子とが異なる市で行ったので、組合員の配置に苦労しました。ソフトボールは中体連の係の先生達より協会の役員さん達の協力が得られたので随分助かりました。

新体操は、ドームの内に売店を出させて頂いたもので、テントの心配、熱中症の心配もなく快適に商売が出来ました。毎回思うのですが、我々日々の商売もそうですが、中体連、高体連の先生方と意志の疎通を欠くことのない様、その県の役員が心がけることが大切だと思います。



スポーツ祭東京 2013

(第 68 回国民体育大会 第 13 回全国障害者スポーツ大会)

『東京に 多摩に 島々に 羽ばたけアスリート』

東京スポーツ用品専門店協同組合
理事長 後 関 成 夫

スポーツ祭東京 2013 が 2013 年 9 月 11 日から
の国体ボート、水泳競技を皮切りに、9 月 28 日
の総合開会式から 2013 年 10 月 14 日の間で開催
されました。『スポーツ祭東京 2013』の大会名は、
従来からの国民体育大会と全国障害者スポーツ大
会を、健常者の大会も障害者の大会も同じ位置づ
けで行うと言う意図で名づけられたと言う事で意
義深い事です。

スローガンにもありますように、競技会場は東
京多摩地区を中心に都内 23 区及び島部にも会場
が設けられ大変広域な大会となりました。会期中、
複数の台風が発生するなど色々なアクシデントが
ありましたが、幸いにも台風の接近が大会日程と
少しずれたりして何とか無事に売店業務を遂行で
きました。開催準備段階では、イベント慣れして
いる東京での大会開催は盛り上がりには欠けるの
ではとの懸念もありましたが、開催直前の 2020 年
東京オリンピック・パラリンピックの開催決定が
起爆剤となり、スポーツ祭東京もマスコミ等にも
大きく取り上げられ、まずまずの盛り上がりを見
せてくれました。また、会場が都内にも多く有り、
天皇皇后両陛下をはじめ多くの皇室の方々のご参

列を頂きました。

さて、大会開催までの活動経緯ですが大会の中
心となる多摩地区には組合加盟店が少ない事。又、
大会会場数の多い事などから 3 年程前から組合員
増強活動を強化いたしました。結果何とか責任店
の割り振りが出来ようになるまでに至りました。
その間、組合理事会内に国体実行委員会を立ち上
げ、大枠の組織図、役割分担、委員会規定作成等
行う為に毎月会合を開きました。平成 24 年 8 月
には全中大会が関東ブロックで行われました。東
京もバレーボール、新体操、相撲の競技が行われ、
国体に向けての予行演習を組合役員で行いま
した。24 年末からは正式に大会売店従事してい
ただく組合店募集を行い、25 年 1 月に説明会を
開催いたしました。会場責任店が決定している
ところから順次各自治体の国体実行委員会に出向
いていただきましたが、大会に向けての各自治体実
行委員会の温度差があり、売店テントの確保には
かなり困難致しました。特に、東京は大会会場の
スペースが狭い事、花火大会等の事故で警察や消
防の指導が厳しくなり、売店スペースの確保は思
うように行かない状態でした。また、公営の運動
施設が指定管理業者に委託されていたり、自治体
の実行委員会業務が民間イベント会社に業務委託
されていた自治体もあったりなど色々ありましたが、
JSEC 事務局と連携を計り 100% とまでは行
きませんでした。メーカーさんの出店希望テン
ト数を何とか確保しました。

今後の課題

今後益々競技会場施設の指定管理化が進むと
思われます、また、自治体行政の民間への業務



国民体育大会

委託なども増えると考えられます。JSERA さん JSEC さんと連携を計り自治体実行委員会との最初の交渉が必要だと感じました。また、交渉に際しては運動具組合は全国から大会に参加される方々への自治体の『お・も・て・な・し』の協力



者であると理解していただく事が大前提と認識しました。

関係各位のご協力の下、スポーツ祭東京 2013 売店管理業務を無事終了できました事を深く感謝申し上げます。

新理事長登場

新理事長としての抱負

新潟県スポーツ用品小売商協同組合
理事長 湊谷 茂彦

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、2020年東京オリンピック、パラリンピック開催決定の報道で、日本中が湧き上がり我々の業界にも明るさが見えて来た様に感じました。

伊藤前理事長の時代は全中、国体、インターハイ等ビッグイベントが続き約10年の役職を勤めて頂きました。

この間の労に感謝し報いたいと考えております。大変お疲れ様でした。

思い起こせば組合を法人化するに当たり説明会を開催したこと、定款の作成を県の中小企業団体中央会の指導を受けながらまとめたこと等、苦労した事などが思い出されます。

実際にビックイベントと一緒に運営をし、それなりの成果を上げたと評価されました事は組合員全員の協力があつた事が一番だったと思いますし、一致団結できた数年だった様に思われます。

今後数年間はビッグイベントがない時代に入り

ますので一致団結をしていた組合をどう導くか、役員一同頭をなやませている所であります。

また消費税率の変更にあたり、県の中小企業団体中央会の協力を得ながら全県の組合員対象の説明会を開催し全組合員の相互理解を深めるように努力しているところです。

同時に役員構成も若返りが必要と考えており、これからは長期間の任期は良くないと考えております。

年寄りが悪いとは決して思っていない、それなりの経験を持ちあわせているのは良く知っております、幸いに当県には青年部会があり、勉強会と親睦会を目的にして活動しております、会員数は約20名位になりますがその中から順次組合の役職についてもらうシステムを確立して行こうと思っております。

しかし任期を決めてしまうと次の役職につく人がいなくなってしまう現象が起きる可能性もでてきますので苦慮している所です。

今後何をどう勉強していくか、人材育成をどうやっていくか、価格競争への対応等々課題が山積しており、一歩でも前進する様心掛けていかねばと考えております。

新年早々、辛口の文章になりましたが組合店全店の繁栄と全員の健康を願い、JSERAの益々の発展を願いつつ筆を置きます。

オリンピック・こぼれ話し (2)

広報委員長 角 前 博 道

さてもう少し古代オリンピックを見てみましょう。1100年以上続いた古代五輪の終焉。直接の原因は、ローマ皇帝テオドシウスによるキリスト教以外を認めない、異教禁止令でありました。けれど内部から五輪存続をむしばんだ理由があった様です。それは、五輪への理論の喪失と云われています。

神に対して、又神に近づくため人間としての努力を捧げる、そしてその鍛錬をめでて、神がその勝利を与える。五輪初期は、「なぜ走るのか」の答えは、「そこに神様がいるから」などと云う理由づけであったと思われる。そして勝者にはオリーブの冠のみであったそれが三百年余りで段々変質していった、勝利の栄誉と報酬が個人や都市国家と層し始めたことと云うことです。いわゆるプロ選手の増加、優勝者に約束された報酬と名誉、勝つことのみを目的とした現実主義、そしてそれが快楽や興奮を与える「見せ物」と考えるローマ帝国市民の風潮とあいまって「五輪の理念」が失われて行った様に思われます。そしてその「理念が消えた時」その存在の意義も薄れていき、「内部からの終焉」となって行ったと考えられます。一方近代五輪はどうであろうか？ わずか百年程の間に古代五輪が数世紀かかったたどった変化を一気に体験してしまっている感があります。競技の公平さも、肉体の健全さも無視する不正審判や、ドーピングは、急激な変化に伴い噴出した「ゆがみ」なのだろうか。以前に聞いた話しであるが、シドニーオリンピックのドーピング検査担当者が、将

来の遺伝操作によるドーピングの可能性を示唆しながら、「このままいけばオリンピックは人工的に作られた超人間によるショーになる」と。オリンピック憲章は、その理念を「スポーツを通じた青少年の教育によって、体、精神、心のバランスが取れた健全な人間と、人間の尊厳を守る平和な社会を作ること」とうたっている。商業主義の嵐の中で、この理念の灯を、いつも掲げていけるだろうか。

さて皆さんは、フランスのクーベルタンが近代オリンピック生みの親の様に思っておられるでしょうが、実はその復活の考案者はロンドンから車で三時間余りの、ウェールズとの境界近くにある「マッチ・ウェンロック」と云う小さな村がありますが、そこのブルック博士が真の考案者であると云うことです。古代ギリシャ文化に関心を抱いていた博士は、当時古代オリンピックの遺跡が発掘されたことなどに触発され、大会を考案。村の司教らの猛反対を制して、当時英国では珍しい階層にかかわらず全住民が参加する競技会を開催しました。表彰台や三位までのメダル、又開会式の入場行進は、「ウェンロック五輪が始めた五輪の伝統」だと云われています。クーベルタンは当時、フランスの高等教育に英国式体育を取り入れることに関心を持っていました。特にラグビー校の個性的な雰囲気に興味を持ち、その特徴はスポーツによる人格形成であると考え、フランスの教育制度改革に着手しました。そしてスポーツ教育を普及させる為、オリンピック大会の復興を

目指したのです。ですから確かにオリンピックを復興させたのはクーベルタンにちがいないのですが、国際的なオリンピック大会のアイデアは、もともとウィリアムブルック博士から得たものであるわけです。クーベルタンは、当時、前にも書いた通り、英国制度の研究のため英国に滞在中、ブルック博士から招待を受け、ウェンロック五輪を視察し、当時 27 才のクーベルタンと、81 才のブルック博士は、夜を徹して語り合い、ブルック博士は恒久的にアテネで開かれる、国際的なオリンピック大会開催の夢を熱弁したそうです。クーベルタンは直後の月刊誌に「オリンピックの伝統が現在も生き続けているのは、ブルック博士のお陰だ。」と称賛を寄せて、翌年の大会の花形競技に、メダルを寄贈して敬意を表したそうです。もう少し詳しく書きますと、当時川の沈泥に埋まっていたギリシャオリンピア遺跡の本格的な発掘が、ドイツの考古学者によって行われ、古代オリンピックの存在と伝統が注目を集めていました。1889 年、パリの国際博覧会で、その復元模型が大きな話題を呼んで、こうした流れに触発され、各地で競技会に「オリンピック」の名前を冠にするのがはやり、前に書いた「マッチウェルロック」の他にも「スカンディナヴィア」「ギリシャ国内でのオリンピックと銘打った大会」等々が生まれています。ここでクーベルタンの偉大さは、オリンピックを思いついたことではなく、その理想の実現に向けて大胆で不屈に突き進む、意志の力を持っていたこと、またこれらの競技が国内や地域中心だけではなく、若者の教育と、古代ギリシャのオリンピック停戦にヒントを得た世界平和の促進のため、国際的な大会を継続して開催することを夢見たこと、又、彼自身を駆り立てる行動と、財をもつぎ込む熱意を持ち続けたことと云えるのではないのでしょうか。

(次につづく)



● 編集後記 ●

安倍政権が発足し、アベノミックスが発動された昨年でした。そのことによって大企業が潤い、その恩恵が下請けの中小企業まで流れて勤労者の所得が増大する。こんなことが本当に起こるのだろうか？米国の金融緩和にブレーキがかかり、中国経済がメタメタになると予測されている。円安とはいえ、輸出の先行は極めて不透明であり又 4 月からの消費税により、少し消費の伸びが遅くなる等 2014 年も国民の生活は困窮するのではないだろうか。6 年後にオリンピックが開かれるが、50 年前の東京五輪の時はどうだったか何か「ワクワク感」があった様に思う。当時は皆なが、「なせば成る」つまり「頑張れば何とかなる」と云う感覚があった様に思う。今の時代「頑張れば夢はかなう」という確信がなかなか持てない気がする。せめてまっとうに穏やかに生きて、暮らしに困らず、^{いくさ}戦もない世の中が続いて欲しいとつくづく思う。

(H.K)